



2026 年 10 月 21 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 T O R I C O
代表者名 代表取締役社長 安藤 拓郎
(コード番号：7138 東証グロース市場)
問合せ先 専 務 取 締 役 鯉 沼 充
(TEL. 03-6261-4346)

ETH 建てヘッジファンド (Edge DeFi Offshore Fund, Ltd.) への 出資に関するお知らせ

当社は、2026年10月21日開催の取締役会において、当社が推進する「稼ぐトレジャリー」戦略の一環として、保有する暗号資産（ETH）の運用効率及び利回りの向上を目的に、Edge Capital Investment Management Ltd. (Trinity Chambers, PO Box 4301, Road Town, Tortola, British Virgin Islands、代表者：Vadim Khramov) が運用会社を務めるETH建てヘッジファンドへの出資を決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。本件出資は、2026年8月13日付「ETH建てヘッジファンドへの出資に関するお知らせ」（2026年10月21日付「『ETH建てヘッジファンドへの出資に関するお知らせ』の一部変更に関するお知らせ」により出資先を変更）にて公表しております出資案件に続く、当社が推進するデジタルアセット・トレジャリー（DAT）戦略における外部運用の第2号案件として位置付けております。

なお、本件に係る投資実行は現時点で未了であり、2026年12月中の実行を予定しております。実行時期及び条件については、今後変更となる可能性があります。

記

1. 出資の理由・背景・目的

当社は、日本発のイーサリアムトレジャリー企業として、暗号資産を単純に保有するだけでなく、収益獲得のための事業用資産として活用し、「稼ぐトレジャリー」としての当社独自のPER型金融モデルの確立を目指すデジタルアセット・トレジャリー（DAT）戦略を推進しております。これまで当社は、保有するイーサリアム（以下「ETH」）のステーキング運用に加え、ターゲットバイイング戦略（プットオプションの売却）を通じたETH取得プロセスそのものの収益化や取得コストの実効的抑制を図るなど、運用手法を拡大してまいりました。

今般、こうした「稼ぐETHトレジャリー」の推進と運用のさらなる高度化を目的として、当社は自社運用に加え、外部の暗号資産ヘッジファンドへの出資を進めており、2026年8月13日付「ETH建てヘッジファンドへの出資に関するお知らせ」（2026年10月21日付「『ETH建てヘッジファンドへの出資に関するお知らせ』の一部変更に関するお知らせ」により出資先を変更）にて公表いたしましたとおり、Hyperithm Arbitrage Fund Limited への出資を決議しております。本件出資は、複数ファンドへの分散投資を基本方針とする当社の外部運用先への配分の第2号案件となります。なお、当社は、外部運用先の選定に当たり、15社以上の暗号資産ヘッジファンド及び運用会社を対象にデューデリジェンスを実施いたしました。

評価に当たっては、ETH建てでの運用が可能であること、十分な運用実績を有すること、マーケットニュートラル戦略を基本とすること、2022年11月のFTX破綻を含む市場混乱局面を実運用で

経験していること、運用実績、最大ドローダウン、流動性、ガバナンス、外部監査体制、独立したファンドアドミニストレーターによる NAV 算定体制、リスク管理体制等を主要な評価項目として比較・検証を行いました。

その結果、当社は、本ファンドが、当社が定めた投資基準を満たす数少ないファンドであると判断いたしました。

本ファンドは 2021 年 10 月の運用開始以来（当社が出資する ETH 建てクラスは 2021 年 12 月設定）、Terra/LUNA 崩壊や FTX 破綻など暗号資産市場の大規模な混乱局面を経験しながらも運用を継続しております。また、ETH 建てクラスにおいても安定した運用実績を有しており、設立以来の監査済み財務諸表においていずれも無限定適正意見が表明されていることを確認しております。

比較対象には、より長い運用実績や高い期待リターンを提示するファンドも存在しましたが、本ファンドは、暗号資産価格の方向性に依存しないマーケットニュートラル戦略を基本としつつ、暗号資産取引所（CEX）、分散型デリバティブ取引所（Perp DEX）及び CME 等の伝統金融市場を横断するベシス・トレーディング（ファンディングレート裁定）という独自の裁定領域を有しており、複数の市場環境において高いリスク調整後リターンを実現しております。また、機関投資家を中心とする投資家基盤を有し、保険プログラムの付保やリアルタイム監視体制の整備等の多層的なリスク管理体制を構築している点も評価いたしました。

また、本ファンドは ETH 現物で出資し、リターンも ETH 建てで受領する仕組みであることに加え、出資された ETH をファンド段階で米ドル等へ換金しない ETH 建て出資構造を採用しており、換金に伴うヘッジコストが構造的に発生しないことから、当社は ETH エクスポージャーを維持したまま、保有 ETH 数量の増加を目指すことが可能となります。当社は、本ファンドが当社の DAT 戦略及びトレジャリー運用方針との親和性が高く、既に出資を決議したファンドとの戦略面の分散にも資すると判断し、本件出資を決定いたしました。

2. 出資の概要

（1）出資対象ファンドの基本情報

項目	内容
ファンド名称	Edge DeFi Offshore Fund, Ltd. (Class A Series ETH Shares)
組成地	ケイマン諸島
運用会社	Edge Capital Investment Management Ltd. (英領ヴァージン諸島)
事業内容	暗号資産のマーケットニュートラル運用（ベシス・トレーディング等の裁定取引）
当社との関係	資本関係、人的関係、取引関係及び関連当事者関係はありません。

（2）当社の出資条件

項目	内容
出資金額	当社保有 ETH を原資とする出資 500,000 米ドル相当の ETH ※日本円換算 79 百万円
出資方法	当社保有 ETH を原資として現物出資
契約締結日	2026 年 12 月中予定
投資実行日	2026 年 12 月中予定

（3）ファンドの投資戦略及び運用体制

本ファンドは、暗号資産価格の方向性に依存しないマーケットニュートラル戦略を基本方針とし、暗号資産の現物と先物等を組み合わせたベシス・トレーディング（ファンディングレート裁定）を中心に、暗号資産取引所（CEX）、分散型デリバティブ取引所（Perp DEX）及び CME 等の伝統金融市場を横断する裁定取引により運用を行っております。なお、本ファンドはマスター・フィーダー構造を採用しており、当社が出資するフィーダーファンドを通じて、マスターファンドである Edge DeFi Master Fund, LP において運用が行われます。

運営体制については、ファンドアドミニストレーターである NAV Consulting が独立した立場で純資産価額（NAV）の算定及び管理を行い、監査法人である WithumSmith+Brown, PC（米国・ケイマン）が監査を担当するなど、運用・資産管理・評価・監査をそれぞれ独立した主体が担うガバナンス体制を構築しております。

（４）主要なリスク要因

本ファンドは、暗号資産価格の方向性による影響を抑制するマーケットニュートラル戦略を採用しておりますが、暗号資産市場固有のリスク、暗号資産取引所をはじめとする取引先の信用リスク・カウンターパーティリスク、流動性リスク及び市場環境の急激な変化等により、期待した運用成果が得られない可能性があります。

また、本ファンドでは分散型デリバティブ取引所（Perp DEX）や DeFi プロトコルを活用した運用も行うことから、スマートコントラクトの脆弱性、システム障害、秘密鍵管理上の問題その他のセキュリティインシデントに起因する損失が発生する可能性があります。これらのリスクに対しては、本ファンドにおいて、複数の取引先への分散、保険プログラムの付保及びリアルタイム監視体制の整備等の低減策が講じられております。

なお、当社は、本件出資に当たり、15 社以上の暗号資産ヘッジファンド及び運用会社を対象としたデューデリジェンス並びに外部専門家による法務レビューを実施し、運用実績、運営体制、ガバナンス、流動性及びリスク管理体制等を総合的に評価した上で投資判断を行っております。

3. 今後の見通し

本件出資は、当社が保有するイーサリアム（ETH）を原資として行います。本件出資に係る出資持分は投資有価証券として取得原価により計上し、運用成果は償還時に損益として認識する予定です。なお、会計処理の詳細は監査法人との協議により確定します。

本件出資は、当社が推進するデジタルアセット・トレジャリー（DAT）戦略における外部運用の第 2 号案件として位置付けております。先に出資を決議した Hyperithm Arbitrage Fund Limited と併せ、複数ファンドへの分散投資による外部運用ポートフォリオの構築を進めるものです。当社は今後も、自社運用に加え、暗号資産ヘッジファンドをはじめとする外部運用商品の継続的な調査及びデューデリジェンスを実施し、運用実績、リスク管理体制、ガバナンス、流動性及び市場環境等を総合的に評価してまいります。

また、複数の運用会社及びファンドの運用状況を継続的にモニタリングするとともに、有望な運用先をウォッチリストとして管理し、各ファンドの運用実績、リスク・リターン、市場環境及び当社のポートフォリオ全体の資産配分を踏まえ、新規投資、追加投資及びリバランスを機動的に検討・実施することにより、保有 ETH の運用効率及び収益性の向上を目指してまいります。

当社は、今後も「ETH エクスポージャーを維持しながら保有 ETH 数量の増加を目指す」というトレジャリー運用方針の下、自社運用と外部運用を組み合わせた最適なポートフォリオの構築を進めることで、中長期的な企業価値の向上に取り組んでまいります。

なお、本件出資は当社の業績に一定の影響を与える見込みですが、暗号資産価格の変動、本ファンドの運用状況及び市場環境等により、実際の業績への影響額は変動する可能性があります。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上